

<p>1. 事業細目：バス資源抑制対策事業費</p> <p>2. 研究名：漁業操業時におけるオオクチバスの混獲状況について</p> <p>3. 研究期間：平成元年度～平成3年度</p>	<p>予算額 5,000千円</p> <p>予算区分 国委</p> <p>4. 担当者：山中、澤田</p>
<p>5. 目的</p> <p>漁業操業時におけるオオクチバス（以下バスという）やブルーギルの混獲状況を把握し、専用の</p>	<p>漁具および操業方法を検討する資料とする。</p>
<p>6. 方法</p> <p>琵琶湖におけるバスの漁獲は主として混獲によるが、その混獲量の多い漁具（エリ、刺網、地曳網、投網、タツベ等）は、それぞれに漁具の構造や操業方法に、バスを効率的に捕獲する特性を内包しているようである。そこで、どのような特性がバスの捕獲に重要であるのかを探るため、初年度は刺網について、操業状況とバスの混獲状況を日誌として記録してくれるよう、3人の漁業者に依頼した。</p> <p>刺網操業日誌の記載項目は、以下のとおりである。</p>	<p>る。</p> <p>〔操業状況〕①漁獲対象魚、②操業場所（琵琶湖の図中に記入）、③操業場所の水深、④刺網の把数、⑤設網時間（投網～揚網）、⑥網の吊り方（浮き吊り、ジカバエ等）、⑦網の張り方（湖流、湖岸に対する方向等）、⑧天候</p> <p>〔漁獲状況〕</p> <p>漁獲対象魚やその他の魚類の漁獲量のほか、バスとブルーギルの混獲量は必ず記入。</p>
<p>7. 結果の概要</p> <p>(1) Y氏はモロコとフナを対象に、南湖で年間刺網操業を行っていた。5月から翌年1月までの9ヵ月間の総漁獲量は7,579kgであり、そのうちバスが25%、ブルーギルが11%を占めていた。バスやブルーギルの混獲状況の季節変化は、主として刺網の操業状況（漁獲対象や操業日数等）に左右されているようであり、バスやブルーギルの多くとれる時期を一概に判断することはできないが、大型のバスは11月、12月に、小型のバスは8月に、ブルーギルは11月から1月にかけて多くとられていた。また目合23mmのモロコ刺網では小型のバスが、目合76mmのフナ刺網では大型のバスが混獲されており、バスの体形による目合の選択性が認められた（表1）。</p> <p>図2にY氏の刺網操業場所とバスの多く混獲された場所を示した。バスは沿岸でとれることが多かったが、多くとれる所とそうでない所があり、また9月、10月には沖合にも広がっているように見受けられた。</p> <p>(2) S氏はイオ（ニゴロブナの雌）を北湖の南部で、モロコを南湖で漁獲していた。刺網操業記録は5月から8月までで、以後は沖曳網漁に転</p>	<p>換していた。</p> <p>S氏の漁獲記録には、バスやブルーギルの混獲はなく、聞き取りによると、バスやブルーギルがかからない場所をねらって（水草のある所や杭や棧橋のそば、および浅いところを避けて）刺網を張るので、記録に残すほど網にかからないということであった。</p> <p>(3) N氏は日誌を依頼した5月時は、イオを対象とする刺網漁を、北湖南部の沖合で操業していた。5月中の漁獲量はイオ69.4kg、その他の魚類258kgに対し、バスは1尾、ブルーギルは2尾であった。</p> <p>11月からはバスを漁獲対象とした刺網漁を操業したが、表2に示したように、多いときで60kgのバスが漁獲される程度であり、一時休漁した。1月から再び始めたところ、1日に100kgを越すバスの漁獲がコンスタントに続いた。漁獲のポイントは、防波堤等構築物から5m以上離れず刺網を張ることであった。混獲魚はブルーギルのみであった。</p>

8. 主要成果の具体的数値

表1 刺網による漁獲状況 (Y氏) '89年

魚種名	単位: kg												合計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計			
オオクチバス (大)	117.0	90.5	0	28.0	47.0	65.0	203.0	221.0	91.0	862.5			
オオクチバス (中)	66.0	89.0	19.0	53.0	57.0	143.0	70.0	45.0	42.0	584.0			
オオクチバス (小)	16.0	52.5	60.0	187.0	73.0	61.0	8.0	0	8.0	465.5			
ブルーギル	43.0	77.5	39.0	48.5	14.0	50.0	147.0	272.0	107.0	798.0			
イオ	85.5	48.0	0	0	0	0	0	0	45.0	178.5			
その他のフナ	247.0	320.0	0	0	70.0	94.0	286.0	445.0	195.0	1657.0			
モロコ	17.5	104.0	407.0	173.0	238.0	347.0	36.0	0	0	1322.5			
アユ	0	0	162.0	0	0	0	0	0	0	162.0			
その他の魚類	0	71.0	180.0	89.0	92.0	130.0	211.0	452.0	324.0	1549.0			
合計	592.0	852.5	867.0	578.5	591.0	890.0	961.0	1435.0	812.0	7579.0			

※ バス (大) : 30cm以上、バス (中) : 15~30cm、バス (小) : 5~15cm

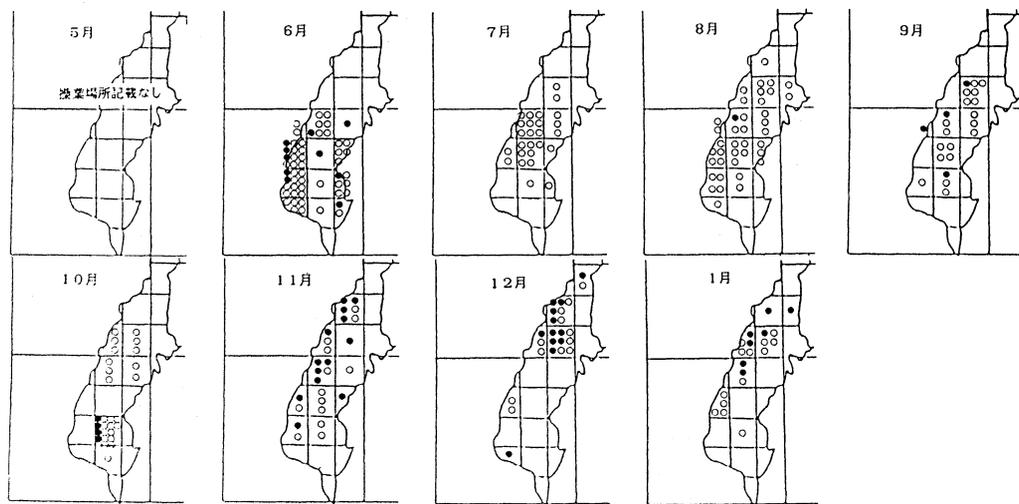


図1 刺網操業場所 (Y氏)

○は刺網操業場所、魚はオオクチバス (大) および (中) が、10kg/日以上混獲された場所

表2 刺網による漁獲状況 (N氏)

魚種名	11月																	12月		1月		2月	
	1	2	4	5	13	14	16	17	18	19	20	21	22	23	24	27	28	1	2				
オオクチバス	32	8	60	31	1	2	9	6	45	11	5	1	9	38	6	6	3						
ブルーギル	20	30	15	5	30	10	1	5	0	10	10	5	0	15	1	15	0						

魚種名	1月					2月		
	26	27	29	30	31	3	4	5
オオクチバス	203	156	123	171	108	115	64	170
ブルーギル	10	3	10	50	21	50	36	40

9. 今後の問題点

刺網の目合を適当に定め、バスが多く生息している場所 (沿岸の水草や構築物のそば等) をねらって刺網を張れば、バスを積極的に捕獲できる

ことがわかった。さらに冬期にバスが一定の場所に寄り集まる習性があるのか、それはどのような場所なのかという点を明確にすることが重要である。

10. 次年度の具体的計画

エリ、タツベ、投網、地曳網。沖曳網についても、操業状況とバスやブルーギルの混獲状況を調査する。